平成２５年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研　究　種　目：一般研究

研 究 代 表 者：山下　博樹（鳥取大学地域学部・准教授）

研 究 分 担 者：なし

研究題目（和文）：
アメリカ合衆国南西部における都市開発の多様性と小規模中心地の盛衰に関する研究

研究概要（和文）：
　本年度は、米国アリゾナ州に調査対象を絞り、９月に詳細な現地調査を行った。その概要は次の通りである。
1.フェニックス都市圏の都市開発の経緯や課題に関する資料を、フェニックス市立中央図書館などで収集した。それによりフェニックス周辺がアリゾナ州でほぼ唯一の成長地帯となっていること、それに伴い近年でも新しい自治体が成立するなど成長過程にあることがわかった。
2.ツーソン、プレスコット、フラッグスタッフなど州内の他の主要都市もそれぞれ特徴的な存立基盤を保持しながら、中心性を維持していた。たとえば、フラッグスタッフはグランドキャニオンなどの北部観光や登山の玄関口として機能し、プレスコットもセドナなどの周辺の森林など観光資源を活用していた。
3.こうした中心性を維持している都市に対し、すでにその役割を終えゴースト化した集落跡なども観察した。Sherman ら(1969)『Ghost Towns of Arizona』にはアリゾナ州内の約 130 のゴーストタウンの記録が記されている。その特徴は次の通りである。①ゴーストタウンの多くは鉱産資源開発に伴い19世紀後半から20世紀前半に形成されたが､数年から数十年の寿命のものが多い。②19世紀末頃までの初期にゴースト化した事例の多くは、資源枯渇や生産性低下により鉱山が放棄された集落で、最盛期の人口規模も小さい。③コロラド川流域に位置した集落は、河港としての機能を存立基盤としたが、貨物船の動力化、大型化による港の変更により衰退あるいは移動した。④集落は、a 鉱山に隣接、b 特定のあるいは複数の鉱山の周辺に位置し労働者の生活拠点として機能、c 河港など物流拠点などの機能、などの機能をベースに鉄道駅やカウンティ役場などの機能を兼ね備える集落もあった。⑤集落内に立地した施設は、食料品などの店舗、飲食店、ホテル、郵便局、酒場など限定的であったが、一部には学校、教会、新聞社などをもつ町もあった。飲食店の一部は中華料理店で、中国からの移民の存在が推察される。⑥20世紀になり資源採掘の大規模化が進み、労働人口も増え大きな集落も出現した。⑦多くは資源枯渇化等により衰退したが、一部に治安の悪化や大火、他の集落での鉄道駅設置による中心性低下などの例もある。⑧乾燥や夏季の高温などの気候条件がゴースト化の直接的な原因になった事例はみられなかったが、当時はこうした気候条件が鉱業以外の産業の発達の阻害要因であったことから、間接的な原因ではあったと考えられる。